

# ウミホタル観察講座（高松市会場） 開催しました！



- 日時 令和5年9月9日(土)19:00~21:00
- 場所 せとうちサステナブルヨットハーバー、大的場海岸(高松市浜ノ町)
- 講師 片岡 裕子 氏 (かがわ里海ガイド)
- 講師アシスタント 谷 光承 氏 (かがわ里海ガイド)  
安井 里香 氏 (かがわ里海ガイド)

9月9日(土)、高松市浜ノ町のせとうちサステナブルヨットハーバー及び大的場海岸にて、「ウミホタル観察講座」を開催し30名が受講しました。

初めに、ウミホタルと夜光虫の違いについて、それぞれの大きさや光り方、なぜ光るのかなどイラストを用いて分かりやすく解説していただきました。さらに、ホタルイカ、チョウチンアンコウ、イソミミズといった発光生物についての説明もありました。ウミホタルについてまだまだ分からないことも多く、分布状況についての調査もまだ十分ではないそうで、調査で気付いたことがあれば報告してほしいとお話がありました。ウミホタルの生態や採集方法についての説明を受けた後、参加者全員ライフジャケットを着用し、大的場海岸へ移動しました。



このイラストは本田技研工業株式会社HP「Honda Kids「ふしぎ」を見に行こう」から利用の許可をいただいています。

ウミホタルを捕まえるには、夜の海岸でウミホタルの好きなエサ(魚肉ソーセージやちくわなど)でおびき寄せます。受講者たちは空のペットボトルとヒモで作った採集装置を持参し、重りとなる砂利とエサと海水を入れ、海底に沈めました。講座当日は満潮のため潮位が高く、細心の注意をはらって作業を行いました。



①ペットボトルに砂利を入れる



②餌となるちくわを入れる



③仕上げに海水を入れます



④海底に沈めます

15分ほど経った後、採集装置をゆっくり引き上げました。暗闇の中、ウミホタルが放つ幻想的な青い光に「わぁー」とあちこちから歓声が聞こえてきました。次に、懐中電灯でバットを照らして泳いでいる様子やルーペなどを使ってウミホタルをじっくり観察しました。実際に手に取ってみると、2~3ミリの小さなウミホタルが光の液を体から出している様子がよく分かりました。

その後、講師によるデモンストレーションがありました。ちくわを両手でこすり合わせ、刺激による発光現象を観察したり、振動の刺激を利用したウミホタルのじゅうたんやグラスの中で光るウミホタルのカクテルなどを披露していただきました。観察後、ウミホタルをみんなで海に戻しました。



せとうちサステナブルヨットハーバーへ戻り、まとめと振り返りを行いました。今回の調査では、あまり多くのウミホタルを観察することはできませんでしたが、ウミホタルは10月頃まで見られるそうで、ちくわ以外にも魚のアラやレバーなどエサや仕掛けを変えて色々な場所で観察してほしいとお話がありました。受講者からは「ウミホタルが身近にいることを実感した」、「座学で学んだ事をフィールドワークで実践し、理解を深められた」、「ウミホタルのためにも環境をよくしたい」などの感想が寄せられ、「きれいな海の指標」とされるウミホタルがこれからも観察出来るよう、「豊かな海づくり」について考えるきっかけとなりました。